

2023/10/17 中頭地区教頭研究大会
琉球大学教育学部 令和5年度文部科学省委託事業「おきなわ教員研修高度化フォーラム」
「増加する外国人児童生徒等へ対応できる学校づくり-ことばと文化の壁を越えるために」

外国人児童生徒等が参加できる 授業づくりと支援の方法

琉球大学教育学部社会科教育専修
准教授 北上田 源

kitaueda@edu.u-ryukyu.ac.jp

1

今日皆さんに伝えたいこと

- ・日本語が苦手な外国人児童生徒も参加する形で
在籍学級で教科の授業をすることはできます!
- ・そのために…
学習内容の精選を
言語だけに依存しない活動/教材作りを
言語面での配慮を
- ・それができると、結果的に
(外国人児童生徒以外の)すべての子供も参加しやすい授業になります!

2

今日紹介したい事例



小学校6年生社会科教科書(教育出版)より

- ・昨年度(2023年2月)北谷町立北玉小学校で、先生方と協働で作った授業
- ・日本語が苦手な子どもがいる6年生の学級で社会(歴史)の授業を実施
- ・「戦争と人々の暮らし」単元の「子どもたちと戦争」の授業
- ・同校の校内研として実施し、学校全体での取り組み方を考える機会とする

3

外国人児童生徒も参加できる在籍学級での教科学習のために

【授業の準備段階でできる工夫など】

【授業中にできる工夫など】

	やるべきこと	説明
A-1	単元目標の 焦点化	教えたい/教えるべき学習内容を絞り、カリキュラムの目標を焦点化する
A-2	授業内容の 焦点化	教えたい/教えるべき学習内容を絞り、授業の柱となる活動を決める
A-3	教材研究	子どもが参加したくなる(身近な/意外な/面白そうな)教材を探す
A-4	教材準備	言語面の負荷を減らして授業参加するための教材準備(視覚化/リライト等)
A-5	鍵になる文型+ 語句の選択	学習内容の理解/授業参加のために必須となる文型/語句を決める
A-6	日本語教室との連携	上記A1~A5について、日本語教室と連携する(内容/文型の予習/復習等)

	やるべきこと	説明
B-1	視覚化/焦点化/ 作業化	(A-2,A-4などを活かして)絞った学習内容を、視覚化/作業化して教える
B-2	発話の工夫	子供にわかりやすく話す/A-5で設定した文型・語句を意識した発話

- ・視覚化/作業化のための資料準備(A-4,B-1)/発話の工夫(B-2)などは比較的取り組みやすい
- ・ただ、内容の焦点化(A-2)、文型/語句の選択(A-5)をしていかないと、教師の負担増は避けられず、体系性からも問題

4

授業の準備段階でできる工夫 A-1 単元目標の焦点化

教えたい/教えるべき学習内容を絞り、カリキュラムの目標を焦点化する

【内容】において

(2)我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(サ)日中戦争や我が国に関わる**第二次世界大戦**、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などを手掛かりに、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解すること。

【内容の取扱い】において

(2)内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)から(サ)までについては、**児童の興味・関心を重視し**、取り上げる人物や文化遺産の重点の置き方に工夫を加えるなど、**精選して具体的に理解できるようにすること**。その際、**アの(サ)の指導に当たっては、児童の発達の段階を考慮すること**。

オ アの(イ)から(サ)までについては、当時の世界との関わりにも目を向け、我が国の歴史を広い視野から捉えられるよう配慮すること。

5

授業の準備段階でできる工夫 A-1 単元目標の焦点化

教えたい/教えるべき学習内容を絞り、カリキュラムの目標を焦点化する

【指導要領解説】において

【知識に関わる事項として】

日中戦争や我が国に関わる**第二次世界大戦**については、我が国と中国との戦いが全面化したことや、我が国が戦時体制に移行したこと、我が国が**アジア・太平洋地域**において**連合国**と戦って敗れたこと、国内各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、国民が大きな被害を受けたことが分かることである。また、これらの戦争において、我が国が**多くの国々**、とりわけ**アジア諸国の人々**に対して**多大な損害を与えたこと**についても触れることが大切である。

【技能に関わる事項として】

例えば、当時の**国民生活の様子を知る人への聞き取り調査**や、**戦争の広がり**を**世界地図や写真などの資料で調べ**、**年表などにまとめること**が考えられる。ここでは、聞き取り調査で必要な情報を集める技能、地図や年表などの資料から事象の広がりや経過などを適切に読み取る技能、調べたことを年表や図表などに適切に整理する技能などを身に付けるようにすることが大切である。

6

授業の準備段階でできる工夫 A-1 単元目標の焦点化

教えたい/教えるべき学習内容を絞り、カリキュラムの目標を焦点化する

【指導要領解説】において

【思考力・判断力・表現力等に関わる事項として】

ここでは、社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、戦争はどのように広がったか、人々の暮らしはどのように変わったか、世界との関わりはどのように変わったかなどの問いを設けて、日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦の広がりの様子、戦争の長期化や戦線の拡大に伴う国民生活への影響、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下などにより国民が受けた大きな被害、日本国憲法の制定、オリンピック・パラリンピックの開催などについて調べ、これらの事象を関連付けたり総合したりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことや、我が国が国際社会において果たしてきた役割を考え、文章で記述したり説明したりすることが考えられる。実際の指導に当たっては、例えば、学校図書館や公共図書館、博物館や資料館などを利用したり、地域の高齢者に当時の話を聞いたりする活動を取り入れ、児童が自ら資料を活用したり調査したりする活動が考えられる。

【ポイントになること】

- ・15年戦争の推移(世界との関係/戦争の展開)
 - ・戦争にともなう影響(人々の暮らしの変化や被害)
- を扱いながら、どう
資質・能力を育むか

7

授業の準備段階でできる工夫 A-1 単元目標の焦点化

教えたい/教えるべき学習内容を絞り、カリキュラムの目標を焦点化する

ページ	題材名	各ページで扱う内容
P200～201	1. 戦火に焼けた日本	・空襲による多くの人々の犠牲 ・日本がその戦争をしたこと
P202～203	2. 中国との戦争が始まる	・国内不況→大陸進出(国際社会での孤立) ・満州事変→日中戦争に長期化
P204～205	3. アジア太平洋に広がる戦争	・アジア太平洋への戦域の拡大 ・占領地の人々の動員や抵抗
P206～207	4. 戦争と人々の暮らし	・総動員体制と暮らしへの制約
P208～209	5. 子どもたちと戦争	・子供たちの教育や遊びへの影響
P210～211	6. おそいかかる空襲	・全国での空襲被害(特に民間人)
p212～213	7. 沖縄・広島・長崎、そして敗戦	・沖縄戦/広島長崎への原爆投下

【ポイントになること】

- ・15年戦争の推移(世界との関係/戦争の展開)
 - ・戦争にともなう影響(人々の暮らしの変化や被害)
- を扱いながら、どう
資質・能力を育むか

8

授業の準備段階でできる工夫 A-2 授業内容の焦点化

教えたい/教えるべき学習内容を絞り、授業の柱となる活動を決める

教科書に載っていること

- ・学校での教育内容/活動
- ・子どもの遊び(雑誌・アニメ)
- ・子どもの動員(協力)/訓練

この3つの内容は、いずれも「戦争の影響で子どもの日常に大きな変化があった」と言える内容
⇒「変化」に着目する活動



9

授業の準備段階でできる工夫 A-3 教材研究(教材探し)

子どもが参加したくなる(身近な/意外な/面白そうな)教材を探す

例①…子どもたちが通う学校の昔の写真を探す(学校の100周年記念誌などから)



例②…教科書に載っている少年雑誌に関する情報を探す



教科書掲載の資料だけだと「変化」を読み取りにくい
⇒ここでは資料「変化」が読み取りやすい資料を探す

10

授業の準備段階でできる工夫 A-4 教材準備(言語面負荷減らす)

言語面の負荷を減らして授業参加するための教材準備(視覚化/作業化/リライト等)

【視覚化・作業化の例】⇒実際の授業場面での動画にて 以下【リライト例】

教科書 p208 本文

この時間の問い

戦争は、子どもたちの暮らしにどのような影響をあたえたのだろう。



子どもたちと戦争 戦争が激しくなる中で、子どもたちの暮らしも、しだいに戦争一色になっていきました。小学校でも、戦争の訓練が行われるようになり、大きくなったら立派な兵士になって国のために働くように教えられました。教科書にも、戦争に関する内容が多くなるようになりました。子どもたちの楽しみや遊びの中にも、戦争が大きな影響をあたえました。

戦争が続くと、多くの学生は、勉強を中断して、兵士として戦場に送られていきました。国内の労働力不足も深刻になり、中学生や女学生も動員されて、兵器工場などで働きました。

戦争中の教科書

子どもたちと戦争

【本文リライト例】

戦争が激しくなりました。そして、子供たちの暮らしもだんだん変わりました。

小学校でも、いろいろなことが変わりました。教科書は戦争の話が多くなりました。また、子どもたちは戦争の訓練をしました。兵士を育てることが大切にされたからです。

中学生は、兵器を作る工場に働きました。大学生は、兵士になって戦争に行きました。勉強よりも、戦争が大切にされたからです。

子どもの遊びも変わりました。何が変わったでしょうか？

【リライト時の基本的な考え方】

・用語は残す ・文章は短く ・言葉を簡単に ・用語を統一 ・できるだけ主語を明確に

11

授業の準備段階でできる工夫 A-5 鍵になる文型・語句選択

学習内容の理解/授業参加のために必須となる文型/語句を選んでおく

文科省「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発」(2005年)より

同カリキュラムは、外国人児童生徒の日本語の習得と在籍学級での教科学習への参加を両立させることを意図したカリキュラム。ただ、使用を想定している外国人児童生徒の多様性を踏まえ、基本的には一人一人に適した個別カリキュラムの開発を支援することを前提として、授業の基本構造や学習活動を単位化した「AU(Activity Unit)」がカリキュラム開発と授業実施のための「ツール」として提案されている。したがって、いくつかの授業案は例示されているものの、「教授項目」や「教授方法」の一覧を提示するようなものにはなっておらず、「これをすればいい」というような定式化したマニュアルがあるわけではない。



文科省JSLカリキュラムより
(トピック型AU一覧/
社会科AU一覧)
<https://bit.ly/3X7dN9q>

【AUの一例】

B-4 AU: 疑問を抱く(「原因・理由を追求する-1」)
よく使う言葉 → (動詞)のは なぜ でしょうか

	働きかけ・発問の表現	応答の表現
基本形	～のは、なぜですか。／でしょうか。	たぶん、～(だ)からです。
バリエーション	～ですね。／～ましたね。なぜでしょうか。 ～ですね。それは、A(だ)からですか、B(だ)からですか。	～(だ)からです。／わかりません。 A/B(だ)から。

12

外国人児童生徒も参加できる在籍学級での教科学習のために

【授業の準備段階でできる工夫など】

【授業中にできる工夫など】

	やるべきこと	説明		やるべきこと	説明
A-1	単元目標の 焦点化	教えたい/教えるべき学習内容を絞り、カリキュラムの目標を焦点化する	B-1	視覚化/焦点化/ 作業化	(A-2,A-4などを活かして)絞った学習内容を、視覚化/作業化して教える
A-2	授業内容の 焦点化	教えたい/教えるべき学習内容を絞り、授業の柱となる活動を決める	B-2	発話の工夫	子供にわかりやすく話す/A-5で設定した文型・語句を意識した発話
A-3	教材研究	子どもが参加したくなる(身近な/意外な/面白そうな)教材を探す			
A-4	教材準備	言語面の負荷を減らして授業参加するための教材準備(視覚化/リライト等)			
A-5	鍵になる文型+ 語句の選択	学習内容の理解/授業参加のために必須となる文型/語句を決める			
A-6	日本語教室との連携	上記A1～A5について、日本語教室と連携する(内容/文型の予習/復習等)			

・視覚化/作業化のための資料準備(A-4,B-1)/発話の工夫(B-2)などは比較的取り組みやすい
・ただ、内容の焦点化(A-2)、文型/語句の選択(A-5)をしていかないと、教師の負担増は避けられず、体系性からも問題

13

授業の準備段階でできる工夫 A-6 日本語教室との連携

上記A1～A5について、日本語教室と連携する(内容/文型の予習/復習等)

【連携の例①予習型】

- ・用語の確認
- ・リライト文章確認
- ・資料の事前確認



- ・理解度の確認
- ・用語の確認
- ・資料の意味確認

授業参加

担任への情報共有

【連携の例②復習型】

14

授業の場面でできる工夫 B-2発話の工夫

子供にわかりやすく話す/A-5で設定した文型・語句を意識した発話

【例えば】この資料を紹介する時の教師の発話の仕方を考えてみよう



15

授業の場面でできる工夫 B-2発話の工夫

子供にわかりやすく話す/A-5で設定した文型・語句を意識した発話

【例えば】この資料を紹介する時の教師の発話の仕方を考えてみよう



【教師の発話例1】

はい、それではこの絵に注目してもらってもいいですかね。これ、何かわかる？ そうだね、いろんな絵が描かれているよね。これ子どもの絵とか戦争の絵とか飛行機の絵とかあるのわかってもらえると思うんだけど。これここに「少年」って書かれてるのわかるかな、今と違って右から読むんだけど、そう、これは子どもたちに向けて作られた漫画で、人気があった少年雑誌なんだよね。今でいうジャンプとかかな、子どもたちはこれを毎月楽しみにして本屋さんに行き行って読んでたんですね。じゃあ、これいつ頃の漫画か想像つきますか？

【教師の発話例2】

これを見てください。これは何ですか？(これは漫画です)
誰が読む漫画ですか？(子どもが読む漫画です)
みんなは漫画を読みますか？
好きな漫画は何ですか？
(好きな漫画は〇〇です)
これはいつ作られた漫画ですか？なぜそう思いましたか？
(戦争の時です。兵隊の絵があるからです)

16

授業の場面でできる工夫 B-1 視覚化/焦点化/作業化

絞り込んだ学習内容を、視覚化/作業化することを通して参加を促す

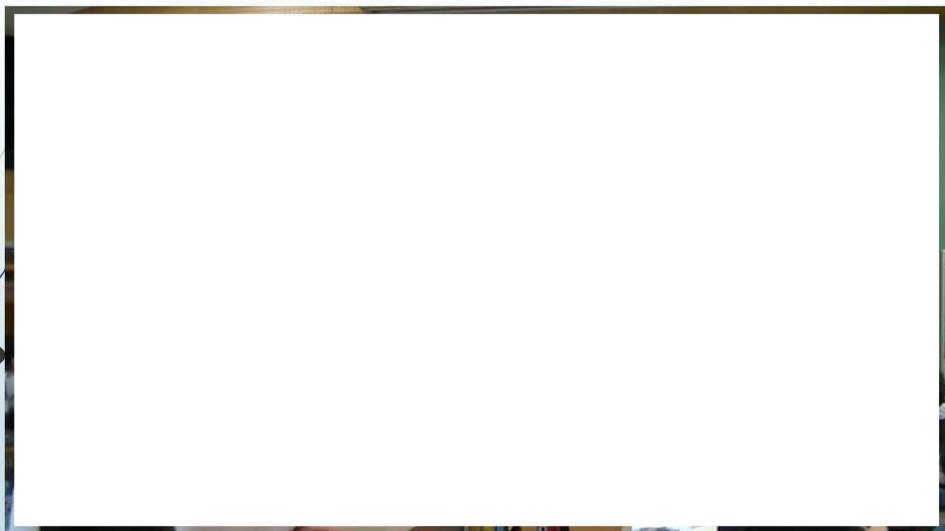


教科書にも掲載されている少年雑誌の表紙をまとめた資料を3年分準備。
戦争の前→戦争中→戦争が終わる時の順番になうように、並べ替える活動をする。

17

授業の場面でできる工夫 B-1 視覚化/焦点化/作業化

絞り込んだ学習内容を、視覚化/作業化することを通して参加を促す



18

授業の場面でできる工夫 B-1 視覚化/焦点化/作業化

絞り込んだ学習内容を、視覚化/作業化することを通して参加を促す

【動画で見た活動のポイント】

○教材の工夫として

- ・子どもたちにとって身近な漫画という題材
- ・絵が中心なので、視覚的に把握しやすい/示しやすい
- ・学習内容に密接に関連する情報が多く含まれている

→日本語が苦手でも参加を促しやすい教材の工夫

○活動(問い)の工夫として

- ・手を動かす作業になり、参加しやすい
- ・並べ替える=「変化」をイメージする必要がある
(時間的な広がり意識せざるをえない)
- ・意見差が見えやすく、理由を言語化する必然性が生じる

→社会的な見方・考え方を働かせた活動になる

19

今日皆さんに伝えたいこと

●日本語が苦手な外国人児童生徒も参加する形で

・在籍学級で教科の授業をすることはできます!

●そのために…

- ・ 学習内容の精選を
- ・ 言語だけに依存しない活動/教材作りを
- ・ 言語面での配慮を

【外国人児童生徒のための授業作りは…】

- ・言語面にとどまらず、各教科の授業のあり方自体を先生方が考えるきっかけになります
- ・「誰一人取り残さない」ための授業改善の一環として、ぜひ学校全体での取り組みを

●それができると、結果的に

- ・ (外国人児童生徒以外の)すべての子供も参加できる授業になります!

※外国人の子供に特有のアイデンティティ形成/キャリア形成に関する課題は別途考える必要があります。

20